

特集

プラネタリウムドームにおける 星空案内人資格認定講座

和田浩一（星のソムリエ京都）

1. はじめに

2009 年度から京都において開講している「星空案内人資格認定講座」（以下「京都講座」）と並行して、2013 年度から城陽市にある複合文化施設「文化パーク城陽」のプラネタリウムドーム内においても「星空案内人資格認定講座」（以下「城陽講座」）が開講しました。本報告では、プラネタリウムドーム内で講座を開講するに至った経緯、従来の講座との関係そしてアンケートの分析結果などについて報告します。

2. 京都における星空案内人資格認定講座

天文ボランティア「黄華堂」が実施団体となり、京都では 2009 年度から「星空案内人資格認定講座」が開講されました。2 年目以降は講座卒業生が中心となって組織された「星のソムリエ京都」が講座の主な運営を行っています。講座実施期間は 4 月から 12 月で毎月 1 回の講座を全 9 回行います。他県の実施団体と異なり、専用の開催場所を持たないことが大きな問題でしたが、キャンパスプラ京都（京都市大学のまち交流センター）を中心に京町屋を利用するなどして、京都という土地柄を活かした講座運営によってよい形で解消されました。

3. 文化パーク城陽について

文化パーク城陽は、京都府南部の城陽市にある複合文化施設で、コンサートホールを中心にプラネタリウム、図書館およびコミュニティセンターなどから構成されています。プラネタリウム（名称:コスモホール）は、コミカミノルタ INFINIUM +DYNAVISON を

そなえ、ドーム直径が 23m で座席数 252 の全国屈指の広さです。年間観覧者数は約 2 万人です。

4. 城陽講座開講経緯

京都府南部地域の天文教育活動の拠点づくりと、プラネタリウムを講座の中で積極的に利用したいということから、NPO 法人「子供達と科学技術の架け橋」の紹介により 2013 年度からコスモホールの中で「星空案内人資格認定講座」を開講できることになりました。

5. 講座について

京都講座と並行して城陽講座が行われるため運営メンバーの負担と京都講座の受講生にもプラネタリウムでの講座を体験してもらうことを考えて、9 回のうち 4 回を合同講座にしました。

合同講座

- ・開催場所：コスモホール
 - 第 3 回「星座を見つけよう」
 - 第 4 回「宇宙はどんな世界」
 - 第 5 回「望遠鏡を使ってみよう」
- ・開催場所：ちおん舎（京町屋）
 - 第 6 回「宇宙はこんなに活動的」

城陽講座では望遠鏡製作の回などを除いた 6 回の講座についてはドームにプロジェクターを投影し講義もコスモホールで行いました。プラネタリウムの投影は、講座の始まる前にはほぼ毎回約 15 分行いましたが、講座の中では「星座を見つけよう」のときしか行いませんでした。毎回の投影は「今日の星空」というテーマで文化パーク城陽のプラネタリウム投影担当の方をお願いしました。唯一講座の

中でプラネタリウムを使用した「星座を見つけよう」では、プラネタリウム投影担当の方にも講師を務めていただき、星のソムリエ京都の運営スタッフと連携して講義の中で行うプログラムを作成し、受講生にプラネタリウムを見てもらいながら、天体の動きや星座の位置などを確認してもらいました。

6. 受講者のアンケート結果について

講座の満足度

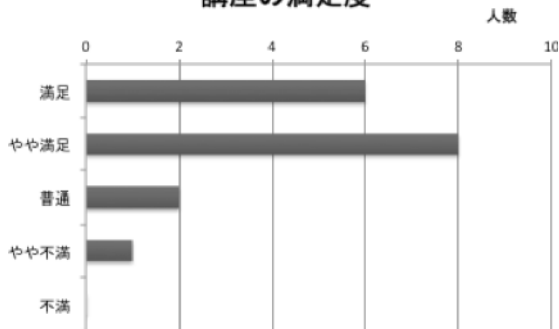


図1 講座の満足度(回答数 17)

いつ頃から天文趣味としていますか？

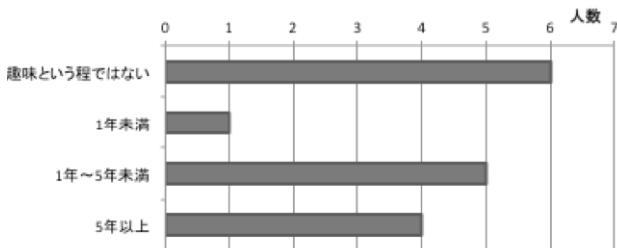


図2 趣味について(回答数 17)

講座前のプラネタリウムの感想

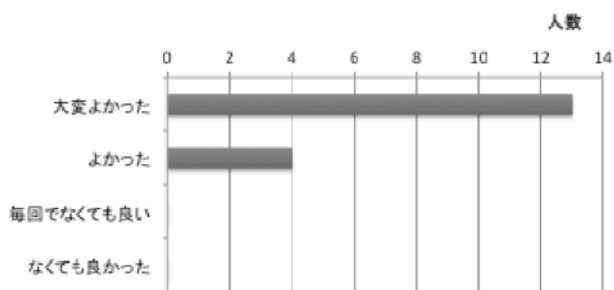


図3 講座前のプラネタリウムの感想 (回答数 17)

今後の天文施設の利用頻度は？

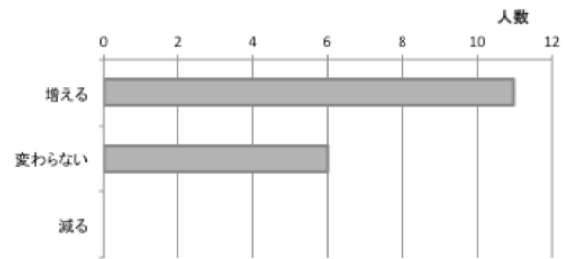


図4 今後の天文施設の利用度(回答数 17)

プラネタリウムドーム内で行う講座についてはどのように感じられましたかという設問には、「イスが倒れるために体勢が辛かった」、「イスが気持ち良いし、移動しなくても楽に話が聞けてよかったですと思います」、「プラネタリウムがあるので『星空』にととても親近感が出て「さあ一星空の勉強をするぞ〜」て気持ちになりました」という意見がありました。

7. まとめと今後

アンケートの結果から、プラネタリウムは、単に天体の位置や動きを学ぶだけの道具ではなく、わくわく感や学ぶことに楽しみを与える大きな力があることを確認できました。また、図4から、3分の2の受講生が天文施設の利用頻度が今後増えると答えていることは、講座の内容とプラネタリウムの相乗効果がうまく働いた結果だと考えています。一方で、プラネタリウムドーム内の講義は、机がないことでメモがとりにくかったり、リクライニングシートであることで聴くための姿勢をとりにくかったりなどの問題点がありました。

2013年度の城陽講座の受講生は半数が城陽市民であり、京都講座に比べると地域密着型の講座になりました。次年度以降も開講が可能であれば、23mのプラネタリウムドームを財産にして文化パーク城陽を京都府南部地域の天文教育の拠点の1つとなるような活動を進めて行きたいと思っています。